

正誤表・更新情報

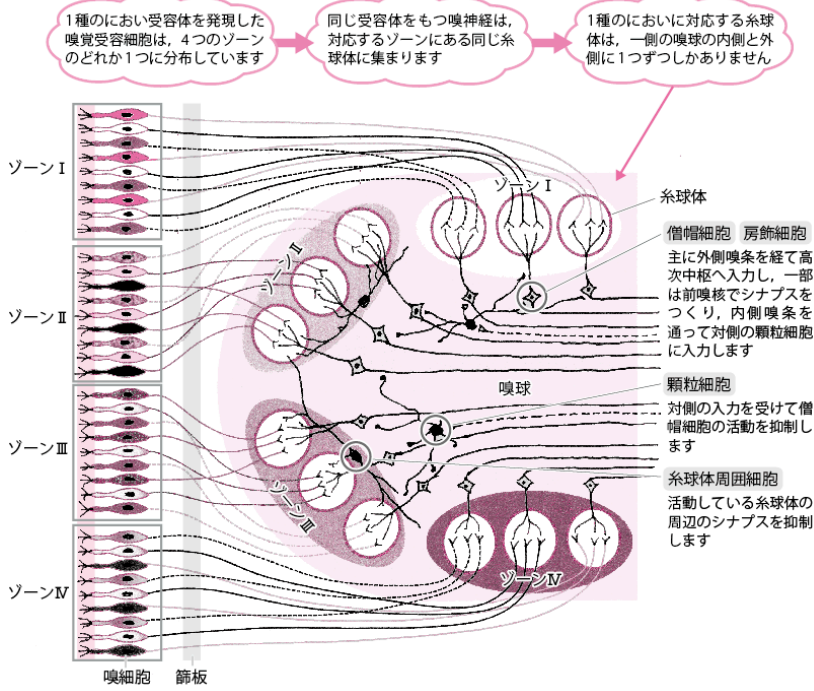
本書中に訂正・更新箇所等がございました。お手数をお掛けしますが、下記ご参照頂けますようお願い申し上げます（2020年6月26日）

■第1版 第4刷（2019年5月10日発行）の修正・更新箇所

※第1刷からの修正箇所はhttps://www.yodosha.co.jp/correction/9784758122016_corrections.pdf をご参照ください

頁	場所	修正前	修正後	補足	掲載
第2部 5章					
87	1行目	ヒトもマウスも 基本的には 同様である。	ヒトもマウスも同様である。		20/06/26
87	図2-29			※1参照	20/06/26
88	1行目	多数の嗅覚受容細胞軸索の終末が僧帽細胞(mitral cell)とよばれる…	多数の嗅覚受容細胞軸索の終末が僧帽細胞(mitral cell) および房飾細胞(tufted cell) とよばれる…		20/06/26
88	6~7行目	嗅覚受容細胞からのびた軸索は、糸球体において房飾細胞(tufted cell)ともシナプスを形成する。	この文章を削除		20/06/26
89	下から10行目	もちろんほかの個体でも同じあり	もちろんほかの個体でも同じ で あり		20/06/26
第2部 6章					
95	4行目	Na ⁺ チャンネルが活性化 し 。	Na ⁺ チャンネルが活性化 され 。		20/06/26
第3部 1章					
104	下から4行目	上腕三頭筋などの 下 腕	上腕三頭筋などの 前 腕		20/06/26
第4部 3章					
154	下から2行目	アストログリアはグルタミン作動性	アストログリアはグルタミン 酸 作動性		20/06/26
第5部 2章					
168	6行目	世界には 10,000種以上 もの	世界には およそ7,000種 もの		20/06/26
169	図5-6			※2参照	20/06/26
第5部 3章					
179	4行目	ジョージ・アンガー(Gorges Unger)	ジョージ・アンガー(Georges Unger)		20/06/26

※1 以下の図への差し替えをお願いします(「房飾細胞」の追加)



※2 以下の図への差し替えをお願いします(「軟口蓋」の文字・指示線の追加)

